

浄相院  
だより寿  
光

第67号

平成27年1月1日

発行：浄相院  
畑中芳隆〒332-0035  
川口市西青木1-10-34  
TEL 048 (251) 5984  
FAX 048 (251) 5792

## 年明けに

新年明けましておめでとうございます。

小さい頃、お正月は待ち遠しくも畏敬の念を持って迎えたものでした。年越し前にこれだけはやっておかねばと目標をたてました。そして年が明ければ自分が変わる、新しい自分に生まれ変わることができると信じたものでした。実際には周りは何も変わっていないのでしようが「正月＝新たな出発」という期待が込められていた覚えがあります。

また世の中もそうでした。年末は慌ただしく支払いや集金、大掃除と追われ正月を迎える準備をして実家で故郷で元日を迎えたのでした。店も正月は閉店でしたからおせち料理を作って備えました。

今はどうでしょうか。

コンビニの出現によっていつでも何でも調達できる便利な時代になりましたが、その分

季節感は薄らいできました。おごそかに正月を迎えるというよりもリゾート地や一流ホテルで優雅に過ごす人も増えてきました。

あるいはこう感じるのも私自身が単に年を重ねてきていることに他ならないかもしれないですね。「正月＝またひとつ年を取る」という心境です。日々の生活に追われて気がつけば長い年月が流れていたのです。

法然上人は仏教がすぐそこにあるにもかかわらずそのことに関わらずに生きてきた人に戒めを与えています。

「かくのごとくして、昨日も徒に暮れぬ。

今日もまた虚しく明けぬ。いま幾たびか暮らし、幾たびか明かさんとする。」

(意味＝毎日毎日仕事を仕事だ、遊びだと言って仏教の修行をしないまま昨日も無意味に終り今日もむなしく朝を迎えた。一体いつまでこんな日々を送るのですか)

そして多くの仏教の修行のうちからナムアマダブツとお称えをしていくお念仏こそが

極楽浄土へ往生するための修行であり、私たちはお念仏だけで救われていくことを示されました。

私たちの命には限りがありますが、お念仏を称えていけば極楽浄土での無限の命が約束されているのです。

お正月の落ち着いたひととき。

幾多の嬉しさも悲しさも乗り越えて新しい年を迎えた尊いご自分があることに立ち返って見てはいかがでしょうか。そして今年からでも決して遅くありません、お念仏を声に出して、ゆっくりとしかし確実に、過ぎてゆく時の流れに合わせて続けていくことです。

わかることは変わること。

時には楽しみながら、時にはお念仏申したくないと思いつつも、そのままの自分でお称えをしていくなかに仏さまと出会うことができるのではないかと存じます。

よいお年になりますよう念じております。

(住職 畑中芳隆)

